

C H A P T E R



中学校
実践ハンドブック

目 次

- I 本ハンドブックの作成(2024改訂)に当たって
- II CAN-DO リストについて
 - 「CAN-DOリストの形での学習到達目標」作成の手引き
 - CAN-DOリスト活用例 ～单元ごとのCAN-DOリストを作成する場合～
 - AOMORI CAN-DOリスト
- III 実践例について
 - 活用のポイント
 - 実践例1 話すこと〔やり取り〕ア
 - 実践例2 話すこと〔やり取り〕イ
 - 実践例3 話すこと〔発表〕ア
 - 実践例4 話すこと〔発表〕イ
 - 実践例5 話すこと〔発表〕ウ
 - 実践例6 書くこと ア
 - 実践例7 書くこと イ
 - 実践例8 書くこと ウ
- IV 参考文献

I 本ハンドブックの作成(2024改訂)に当たって

1 作成(2024改訂)の趣旨

- (1) 中学3年生に求められるCEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する生徒の育成に向け、五つの領域(聞くこと・読むこと・話すこと〔やり取り〕・話すこと〔発表〕・書くこと)を総合的に育成するための指標となる県版『中学校外国語科パフォーマンス評価実践ハンドブック』を作成する。
- (2) 英語の三つの領域(話すこと〔やり取り〕・話すこと〔発表〕・書くこと)について、パフォーマンス評価の事例を示すことにより、学年ごとの到達目標実現のための単元目標及び評価方法等の立案する際の一助とする。
- (3) 英語の五つの領域について、CAN-DOリストの形での学年ごとの到達目標と達成状況を測る評価方法を「AOMORI CAN-DOリスト」として示すことにより、県内中学生一人一人の五つの領域ごとの英語力の状況を把握し、英語力向上に係る指導改善を図る。

2 パフォーマンス評価の必要性

2016年の中央教育審議会答申では、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、パフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。」としている。

よって、面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンス評価を授業に取り入れ、「言語を用いて何ができるか」という観点から評価を行うことが大切である。

「CAN-DO リストの形での学習到達目標」作成の手引き

1 CAN-DO リストの形での学習到達目標とは？

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域ごとに、卒業時及び各学年修了時までには児童生徒に身に付けさせる能力を、学習指導要領の各領域の目標に基づき、「～することができる」の形で一覧表にしたものです。ここではその一覧表を「CAN-DO リスト」と表すことにします。

2 なぜ CAN-DO リストの作成が求められているのか？

「外国語(英語)」を用いて何ができるようになるか」というコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指した指導と評価をするためです。

「外国語(英語)を使って何ができるようになるか」という観点から、CAN-DO リストを作成します。教科書・教材、児童生徒の学習状況、授業時数等を踏まえながら、できるだけ分かりやすく設定し、その目標に到達するための指導方法を工夫・改善することが期待されています。

3 CAN-DO リストを作成することの効果とは？

教員と児童生徒がゴールを共有し、学習への見通しをもち、学習を評価する(振り返る)ことで主体的な学びを可能にします。

- (1) 「外国語(英語)を使って何ができるようになるのか」を明らかにすることができる。
- (2) 外国語(英語)の学習の「ゴール」が明確になる。
- (3) 文字、語彙、文構造等の知識を活用してコミュニケーションを図ることができる。
- (4) 教員間で共通理解を図りながら指導に当たることができる。
- (5) パフォーマンステストなどを活用することによって「外国語(英語)を用いて何ができるか」という観点から評価することができる。

4 CAN-DO リストの役割とは？

「ゴールを示すこと」と「そのゴールへの到達度を確認」する役割が求められます。

- (1) 「何ができる」ようになるかを知る一到達目標として
- (2) 「どれくらいできる」ようになるかを知る一自分の学びの位置を確認する判断基準として
- (3) 「できるようになる」ために自ら学習する一自律的な学習者を育てるため

5 CAN-DO リストの設定手順とその使い方は？

AOMORI CAN-DO リストを参考に自校版 CAN-DO リストを作成し、活用しましょう。

- (1) CAN-DO リストの目的を中学校区内の外国語(英語)担当教員等で共有します。
- (2) 児童生徒の学習の状況等を踏まえ、卒業時の学習到達目標を「～することができる」という形で、五つの領域ごとに記述します。この時、具体的な学習到達目標となるよう、数値目標を設定してもよいでしょう。
- (3) 卒業時の学習到達目標から、学年ごとの目標を「～することができる」という形で、五つの領域ごとに設定します。その上で各単元における目標を「～することができる」という形で記述し、主な学習活動、評価方法を計画します。
- (4) ペーパーテストに加え、面接、スピーチ、エッセーなどのパフォーマンス評価を活用します。
- (5) 各単元や学期、学年といった単位で学習到達目標の達成状況を把握し、必要に応じて指導方法を改善します。
- (6) 卒業時及び学年ごとの目標の適切さを検討し、必要に応じて見直します。

AOMORI CAN-DO リストや自校版 CAN-DO リストを活用し、児童生徒が自分の学びを振り返る、児童生徒用 CAN-DO リストを作成することもできます。

CAN-DO リスト活用例 ～單元ごとの CAN-DO リストを作成する場合～

- 1 教科書の単元を通して育てたい資質・能力を、AOMORI CAN-DO リストから選択する。

例) 教科書内容 → Blue Sky2 Unit4 My Future Dream

対応する CAN-DO リスト → 2 学年 話すこと [発表] イ

※教科書の単元でスピーチを扱っている場合、「話すこと [発表]」の力を育てることに適していると判断できる。

- 2 CAN-DO リストの下線部を教科書の題材などに変えて「単元目標」とする。

学年	話すこと [発表]
2	イ <u>日常的な話題</u> について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、聞き手の反応を確認しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。 □□□□

例えば、Blue Sky2 の Unit4 であれば、My Future Dream を題材にしているため、下線部を「将来の夢」などに変更する。

- 3 育てたい資質・能力に応じて、具体的な活動場面を想定しながら文言を変更する。

必要に応じて言葉をつないだり、削除したり、「自分で調べた情報を基に」などの学習プロセスが分かる文言を入れたりすることなども考えられる。

<文言を変更した単元目標例>

学年	話すこと [発表]
2	イ <u>将来の夢</u> について、自分の考えや気持ちを整理し、理由を付けてまとまりのある内容を話すことができる。 □□□□

- 4 「単元目標」を観点別にまとめると評価規準（単元目標を実現できたと判断する児童生徒の具体的な姿を記述したもの）になる。

評価規準の習得状況の程度を示したものが評価基準となる。その際、数値や記号、条件等で採点の基準を設定する。評価基準は、ルーブリックと呼ばれる。

<条件設定の考え方・例>

- ・自分の考えや気持ちを整理→「将来の夢について興味・関心をもって取り組んでいることについて述べている」
- ・理由を付けて→「将来の夢についてその理由を述べている」
- ・まとまりのある内容→「opening-body-closing などの文章構成で述べている」

- 5 単元目標及び対応する CAN-DO リストを単元のスタートで児童生徒と共有する。

- 6 単元目標及び対応する CAN-DO リストの到達度を単元末に児童生徒と確認する。

到達できたと判断したら☑を書かせる。

～教科書内容ベース（單元ごと）の CAN-DO リスト例～

年間指導計画			CAN-DO リスト					評価方法
単元名	題材名	言語材料	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	
			【2学年終了時】 はっきりと話されれば、 <u>日常的な話題</u> について必要な情報を聞き取ったり、話の大きな内容を捉えることができる。	【2学年終了時】 日常的な話題について必要な情報を聞き取ったり、話の大きな内容を捉えることができる。	【2学年終了時】 自分の好きなヒーローについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。	【2学年終了時】 自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。	【2学年終了時】 自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。	
Unit1	What is Hero?	There is/are] ~ 接続詞when 過去進行形	はっきりと話されれば、ヒーローについて、大まかな内容を捉えることができる。(イ)	簡単な語句や文で書かれたヒーローについての文章から、話の大まかな内容を捉えることができる。(イ)	自分の好きなヒーローについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)	自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	自分の考えやヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	パフォーマンステスト【発表会】または動画録画
Let's Talk1	待ち合わせ	in front of next to behind between A and B	はっきりと話されれば、待ち合わせの対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。(ア)	簡単な語句や文で書かれた待ち合わせに関する対話文から、必要な情報を読み取ることができる。(ア)	待ち合わせについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)			動画録画(カードを引き、条件に合うように話す。)
Unit2	Traveling Overseas	will + 動原の原形 be going to + 動原の原形 助動詞must	はっきりと話されれば、海外旅行の対話文から、大まかな内容を捉えることができる。(イ)	簡単な語句や文で書かれた海外旅行に関する対話文から、話の大まかな内容を捉えることができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して伝えたり、相手からの質問に応答したりすることができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	パフォーマンステスト【発表会】または動画録画
Let's Talk2	旅行の準備	have to don't have to	はっきりと話されれば、旅行の準備の対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。(ア)	簡単な語句や文で書かれた旅行に関する対話文から、必要な情報を読み取ることができる。(ア)	旅行に必要な物について、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)			動画録画(カードを引き、条件に合うように話す。)

※黄色の枠内は、教科書内容から判断して、育成する資質・能力に適した領域。

Ⅲ 実践例について

活用のポイント

本ハンドブックでは「パフォーマンス評価」を「実際のコミュニケーションが発生する場面や状況の下で課題を設定し、その解決の過程で知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりしている姿を見取るもの」ととらえ、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの三つの領域についての「パフォーマンス評価」の単元における実践例を示しました。

実践例における各項目は以下のとおりで、AOMORI ENGLISH MODEL 単元計画シートの作成順に準拠しています。

単元目標の設定やパフォーマンス評価の実施方法を検討する際、生徒の実態や学校の実情を踏まえながら本実践例を御活用ください。

【実践例の項目について】

1 AOMORI CAN-DOリスト

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

1を基に、単元末で行うパフォーマンステストでの到達目標を示しています。



活用のポイント1：指導・評価内容が明確になる単元目標の書き方が分かる！

各実践例では、指導・評価内容が明確になるよう、以下の4点を含んで設定しました。

- ① コミュニケーションを行う相手
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況など
- ③ 取り扱う話題
- ④ できるようになること

□ 実践例1の単元目標

級友と相互理解を深めるために、自分が継続して取り組んでいること等について、

自分のことを伝えたり、相手に質問したりして、即興で会話を継続・発展させることができる。

3 パフォーマンス課題

2を達成させるための具体的な課題を示しています。

4 目標を達成している生徒の姿

当該単元でどのような力を付けさせたいのかを具体的に示した姿です。2を達成した生徒の発話や記述の例を示しています。

5 評価

(1) 評価規準、(2) 評価基準（ルーブリック評価）を示しています。

パフォーマンスの状況を適切かつ公平に評価するために、評価規準を踏まえた評価の基準を設定することが必要です。



活用のポイント2：多様な評価基準（ルーブリック評価）を参考にできる！

知識・技能の尺度（A、B） → 言語活動における言語使用の正確さの程度
思考・判断・表現の尺度（A、B） → 目的に応じた内容の適切さの程度

6 パフォーマンステストについて

「目標」で示した内容がどこまで達成できたかを測るためにテストを実施します。

(1) 事前指導 (2) テストの実施 (3) 事後指導について示しています。



活用のポイント3：単元を見通した指導の在り方のポイントが分かる！

□ 事前指導について

以下の2点を踏まえ、各実践内容に応じた事前指導例を示しました。

- ・ 単元始めの時間等で、単元目標や目標を達成した姿、評価の基準を生徒と共有し、見通しをもたせる。
- ・ 単元を通して、目標とする領域の言語活動を繰り返し、言語面での上達や内容面での深まりを導く。

□ 事後指導について

以下の3点を踏まえ、各実践内容に応じた事後指導例を示しました。

- ・ パフォーマンステストでの発話や記述を、言語面と内容面から振り返る。
- ・ できるようになったことを自覚させたり、褒めたりして、意欲喚起につなげる。
- ・ 他の生徒の優れた例を共有し、自己のパフォーマンスに生かす。

パフォーマンス評価だけでは十分に見取ることができない領域や観点があることを踏まえ、授業中の言語活動の見取りや振り返りシート、ペーパーテストでの評価と併用して評価の総括に生かすようにしましょう。



実践例 1 私の「〇〇歴」を伝え合おう【話すこと〔やり取り〕ア】

1 AOMORI CAN-DO リスト（3学年 ア）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、事実や意見、感情等を伝え合いながら、即興で会話を継続・発展させることができる。

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

級友と相互理解を深めるために、自分が継続して取り組んでいること等について、自分のことを伝えたり、相手に質問したりして、即興で会話を継続・発展させることができる。

3 パフォーマンス課題

級友同士でお互いのことを今よりもよく知るために、私の「〇〇歴」について伝え合い、即興の会話を2分程度継続する。

4 目標を達成している生徒の姿

※ S = Student

S1: I have been playing basketball for six years.

S2: Wow, for six years.

**S1: I was a member of Team Kazenoko when I was in elementary school.
I practiced very hard.**

S2: Nice. So, you are a good basketball player.

S1: Thank you. How about you? Do you play any sports?

S2: No. I am not good at sports. I have been learning calligraphy since I was five.

S1: Really? We have been a classmate for three years, but I haven't known that. You are great.

S2: Thank you. Do you know the movie "Shodo girls"?

S1: No. What's that?

S2: Shodo girls make Shodo performance. I want to try it.

5 評価

(1) 評価規準

話すこと 「やり取り」	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
	<p>【知】 現在完了形や現在完了進行形の特徴やきまりを理解している。</p> <p>【技】 自分が継続して取り組んでいることについて、現在完了形や現在完了進行形を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>相互理解を深めるために、自分が継続して取り組んでいることについて、事実や自分の気持ちなどを即興で伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続している。</p>	<p>相互理解を深めるために、自分が継続して取り組んでいることについて、事実や自分の気持ちなどを即興で伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続しようとしている。</p>

(2) 評価基準 (ルーブリック評価)

知識・ 技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形や現在完了進行形を用いた英文を正しく話している。 ・その他の英文についても、正しく英語で話している。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形や現在完了進行形を用いた英文を正しく話している。 ・その他の英文について、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英語で話している。
思考・ 判断・ 表現	A	<p>B基準に加え、以下が当てはまるようなやり取りになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を2つ以上伝え、会話をより継続・発展させている。 ・質問をしながら、会話をより継続・発展させている。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が継続して取り組んでいることとそれに関わる情報を1つ伝えている。 ・相手が継続して取り組んでいることを聞き取り、感想を伝えている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・単元始めの時間に、単元目標を生徒と共有する。
- ・単元を通した帯活動として、即興のやり取りに慣れさせるために、現在完了形や現在完了進行形を使用するような話題（「2年以上続けていること」「ずっと好きなこと」など）について即興で話す活動を行う。
- ・中間指導等で、思考・判断・表現の評価について共有する。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

ペアで2分間やり取りを続ける。

② 留意点

評価及び事後指導のために録画をする。

(3) 事後指導について

- ・録画映像を視聴する。その際、級友の新たな一面をとらえることを視聴の観点とし、級友をよく知ることができたかを振り返る。
- ・視聴後は、望ましいやり取りの様子や言いたくても英語で言えなかった表現を確認し、全体で共有をする。

実践例 2**夏休みの予定を伝え合おう【話すこと〔やり取り〕イ】****1 AOMORI CAN-DO リスト（2学年 イ）**

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。

2 単元目標（=パフォーマンステストの目標）

相互理解を深めるために、夏休みの予定についてたずねたり、答えたりして、ALTとの会話を1分程度続けることができる。

3 パフォーマンス課題

お互いの夏休みについて理解を深めるために、日本で初めての夏を過ごすALTとお互いの夏休みの予定について伝え合い、1～2分の会話を継続する。

4 目標を達成している生徒の姿

※A基準：下線部はA基準の根拠となる発話 ※A=ALT S=Student

A: What are your summer vacation plans?

S: I'm going to visit Goshogawara city and see "Tachinebuta" festival with my family.

A: That sounds nice. Where is Goshogawara city?

S: It's in the west of Aomori ken. It takes one hour by car.

A: I see.

S: Goshogawara city is famous for "Tachinebuta" festival.

A: "Tachinebuta" festival? What's that?

S: We can see very tall Nebuta floats. They are great. Are you interested in Japanese festivals?

A: Yes.

S: In Aomori-ken, we can enjoy many festivals during summer. You should see them.

A: Oh, thank you. I want to see "Tachinebuta" festival someday.

S: What are you going to do during summer vacation?

A: I am going camping with my friends. I like barbecue and watching stars.

S: How nice! Enjoy your summer.

A: Yes, I will. You too.

5 評価

(1) 評価規準

話すこと 〔やり取り〕	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
	<p>【知】未来表現の特徴やきまりを理解している。</p> <p>【技】夏休みの予定について、未来表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	相互理解を深めるために、夏休みの予定について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続している。	相互理解を深めるために、夏休みの予定について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続しようとしている。

(2) 評価基準（ルーブリック評価）

知識・技能	A	・ be going to～を用いた英文、その他の英文を正しく話している。
	B	・ be going to～を用いた英文を正しく話している。 ・その他の英文について、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英語で話している。
思考・判断・表現	A	B基準に加えて、以下が当てはまるようなやり取りになっている。 ・日本で初めての夏を過ごすALTという相手の状況をふまえて話したり、質問をしたりしている。
	B	・夏休みの予定について、1分程度やり取りをしている。 ・自分の考えや気持ちを含めて話したり、尋ねたりして、お互いの夏休みの計画を理解し、相互理解を深めている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・ 単元始めの時間に、単元目標を生徒と共有し、夏休みの予定を考えさせておく。
- ・ 「今夜の予定」、「明日の予定」、「週末の予定」等を話題としたスモールトークを帯活動として継続的に行う。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

- ・ ALTと1分程度やり取りする。
- ・ JTEが見取り、「記録に残す評価」を行う。
※ALTとのやり取りとすることで、ペアとなる級友の能力にかかわらず、信頼性の高い評価ができる。

② 留意点

事後指導のために録画を行う。

(3) 事後指導について

- ・ 録画映像を視聴し、望ましいやり取りの様子や言いたくても英語で言えなかった表現を全体で共有をする。
- ・ 冬休みの前に同様の活動をするなど、継続しながら定着を図る。

実践例3 日本ならではのものを紹介しよう 【話すこと〔発表〕ア】

1 AOMORI CAN-DO リスト（2学年 ア）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、メモやキーワードを頼りにしながら、即興で話すことができる。

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

日本に来たばかりのALTに日本ならではのものについて知ってもらうために、即興で話すことができる。

3 パフォーマンス課題

日本ならではのものが書かれたカードと、接続詞が書かれたカードをそれぞれ一枚ずつ引き、カードに書かれているものについて、カードに書かれている接続詞を使いながら即興で説明する。

4 目標を達成している生徒の姿

※A基準の姿

***Hatsumode* is a Japanese traditional New Year's event. Many people go to a shrine with their family or friends at the beginning of the New Year. They wish for good health and fortune in front of the shrine. Some people wear *kimono* when they go there.**

***Sumo* is a Japanese national sport. It is a type of wrestling. Two wrestlers fight in a big circle ring. When a wrestler pushes out the other from the ring, that wrestler wins the match. If you want to watch *sumo*, you can watch it on TV.**

5 評価

(1) 評価規準

話すこと 〔発表〕	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
	<p>【知】接続詞の特徴やきまりを理解している。</p> <p>【技】日本ならではのものについて、接続詞を用いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>日本に来たばかりのALTに日本ならではのものについて知ってもらうために、その場で示されたものについて、即興で話している。</p>	<p>日本に来たばかりのALTに日本ならではのものについて知ってもらうために、その場で示されたものについて、即興で話そうとしている。</p>

(2) 評価基準 (ルーブリック評価)

知識・ 技能	A	・ 接続詞を用いた英文を正しく話している。
	B	・ 接続詞を用いた英文を、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英語で話している。
思考・ 判断・ 表現	A	B基準に加えて、以下が当てはまるようなやり取りになっている。 ・ 話している内容に文と文の意味的なつながりや、内容の一貫性がある。
	B	・ 日本ならではのものについて、即興で話している。

※上記評価項目に満たない場合、評価Cとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・ 日頃からスモールトーク等で、即興で日常的な話題について話し合わせたり、質問させたりする時間を設ける。
- ・ 接続詞 when、if、that、because を扱う授業において、それぞれの接続詞を使った自由英作文の時間を設け、接続詞を使った文を作ることに慣れさせる。
- ・ 自分が好きなものについて、接続詞を使って話させる。
- ・ 教師から示された日本ならではのものについて、接続詞を使って即興で話させる。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

教師が準備した、日本ならではのものが記されたカード群と接続詞が記されたカード群の中から、それぞれ無作為に一枚選び、カードに記されたものについて、カードに書かれた接続詞を使って即興で話す。

② 留意点

- ・ 教師が準備するカードに記す日本ならではのものは、「布団」や「おせち料理」、「こたつ」など、外国人に英語で説明する機会が想定されるもので、且つ、中学生が既習の語彙で、接続詞を使いながら説明できるものが望ましい。
- ・ 評価はその場で行うが、確認用としてビデオを撮影しておく。

(3) 事後指導について

- ・ 接続詞の使い方、共通して見られる間違い等があった場合には全体で確認し、文法事項の定着を図る。
- ・ 文章構成について触れ、優れた構成のスピーチを全体に紹介するとともに、文と文の意味的なつながりや、内容の一貫性についても考えさせる。

実践例 4 将来の夢を伝え合おう【話すこと（発表）イ】

1 AOMORI CAN-DO リスト（2学年 イ）

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、話の構成に気を付けながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

外国の姉妹校の生徒たちに、自分の将来の夢を明確に伝えるために、話の構成に気を付けながら、まとまりのある内容で話すことができる。

3 パフォーマンス課題

外国の姉妹校の生徒たちに、自分の将来の夢を伝える。

※外国の姉妹校の生徒たちが自分の将来の夢についてスピーチをし、最後に「What do you want to be and why?」と問いかける動画を視聴させ、内容を把握させた上で、「自分の考えがよく伝わるように、彼らの問いに対するあなたの考えなどを話しなさい。」と提示する。

4 目標を達成している生徒の姿

My dream is to be a baseball player or coach. I have two reasons.

First, I like baseball very much and I want to live with it.

Second, I want to be a players or coach like Team Japan of the World Baseball Classic, 2024. Do you know the World Baseball Classic? It is a big baseball event. Last year I enjoyed watching it and Team Japan got No. 1. They are very strong and brave.

I will practice baseball hard for my dream.

5 評価

（1）評価規準

話すこと 〔発表〕	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
	【知】to不定詞の特徴やきまりを理解している。 【技】自分の将来の夢について、to不定詞を用いて話す技能を身に付けている。	外国の姉妹校の生徒たちに、自分の将来の夢を明確に伝えるために、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある内容で話している。	外国の姉妹校の生徒たちに、自分の将来の夢を明確に伝えるために、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある内容で話そうとしている。

(2) 評価基準 (ルーブリック評価)

知識・ 技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞を用いた英文を正しく話している。 ・ その他の英文についても、正しい英語で話している。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞を用いた英文を正しく話している。 ・ その他の英文について、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英語で話している。
思考・ 判断・ 表現	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ B基準に加えて、以下が当てはまるようスピーチをしている。 ・ 自分の将来の夢が明確に伝わるように、強調したり繰り返したりするなど、話し方を工夫している。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の夢について、自分の考えや気持ちを話している。 ・ 伝える順番を工夫し、まとまりのある内容になっている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・ 単元の始めの時間に、単元目標を生徒と共有する。
- ・ 単元を通した帯活動として、生徒は将来の夢とその理由について、ペアを変えながら話す。その際、教師は内容面や言語面での指導を繰り返し、生徒自身に内容の深まり等を感じさせるようにする。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

- ・ ペアで、各自のスピーチを端末で撮影し合う。
- ・ 1単位時間の中で複数回録画する。1回目の録画の後、学級内で共有して見合う。級友の表現上の工夫等、望ましい点を取り入れながら、2回目以降も録画をする。複数回録画をした中から、自分で選択し、提出する。

② 留意点

- ・ 実際にこの動画を姉妹校に送信する。よって、画面に向かってスピーチをするが、伝える相手を意識することを大切にさせる。

(3) 事後指導について

- ・ 各自のスピーチ映像を視聴する。自分たちと外国人の生徒たちとの将来の夢の傾向を比較したり、明確に伝えるための工夫を見つけたりして、気づきを共有する。

実践例 5

人権問題について考えたことを伝えよう

【話すこと〔発表〕 ウ】

1 AOMORI CAN-DO リスト（3学年 ウ）

社会的な話題について聞いたり読んだりしたことについて、自分で作成したメモなどを活用しながら、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて4文程度で話すことができる。

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

級友に自分の意見や考えをよりわかりやすく伝えるために、社会的な話題について、理由を加えて4文程度で話すことができる。

3 パフォーマンス課題

NEW CROWN 3 Lesson 5 「I Have a Dream」の人権問題に関する社会的な話題の媒体を読んだり見たりして、考えたことや感じたこと、その理由などを、自分で作成したメモなどを活用しながら、簡単な語句や文を用いて4文程度で発表する。

4 目標を達成している生徒の姿

※A基準

1文目：**I want to create a world without discrimination.**

2文目：**I was shocked that black people were not free and they had to accept slavery.**

3文目：**I couldn't understand why the police came and arrested Rosa Parks.**

4文目：**She hasn't done anything wrong.**

5文目：**That's why, we should not judge by their race, religion, or political believes.**

※B基準

1文目：**I think this is bad.**

2文目：**I was sad because black people were caught.**

3文目：**It must not happen again.**

4文目：**So, we want to change it to a better world.**

5 評価

(1) 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	<p>【知】既習の言語材料の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技】社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>級友に自分の意見や考えをよりわかりやすく伝えるために、社会的な話題について、理由を加えて事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>級友に自分の意見や考えをよりわかりやすく伝えるために、社会的な話題について、理由を加えて事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話そうとしている。</p>

(2) 評価基準（ルーブリック評価）

知識・技能	A	・既習の言語材料を用いた英文を正しく話している。
	B	・既習の言語材料を用いて、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英文を話している。
思考・判断・表現	A	・順を追って聞き手に自分の意見や考えをよりわかりやすく伝える発表になっており、5文以上で話している。
	B	・少々のポーズ(間)はあるものの、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の考えなどを4文程度で話している。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・単元始めの時間に、単元目標(=パフォーマンステストの目標)を生徒と共有する。
- ・教科書の本文を読み、自分が一番印象に残った文に下線を引き、その文に自分の意見や考えを付け加える指導を継続して行う。
- ・教科書の例文等を必要に応じて振り返らせたり、必要な文に気づかせたりして、自分の意見や考えを4文程度で発表できるよう、帯活動として継続して行うことも考えられる。

- ・日本語をそのまま英語に直訳しようとするつまずきが多いため、主語、動詞の文構成を意識させながら生徒が考えられるように支援する。
- ・普段から、2人1組でパートナーからタブレット端末で録画をしてもらい、互いにアドバイスをもらう活動を行う。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

- ・一人ずつ実施。(録画する。)
- ・社会的な話題に関する題材を教科書で学習した後に、自分の意見を4文程度で発表する。

1文目：自分の意見

2文目：1文目をサポートする理由

3文目：自分の意見を補足する内容

4文目：自分の意見(表現方法を変えて1文目の内容を話す)

② 留意点

- ・録画をし、「記録に残す評価」を行う。
- ・AOMORI CAN-DO リスト話すこと〔発表〕ウにおける学年ごとの到達目標は、話す文の数が異なるので、提示する社会的な話題の媒体の難易度を変えることによって、1・2学年でも活用できる。
- ・学習到達目標における「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたこと」を示す媒体は、ニュース、新聞記事などの読み物資料だけでなく、映像、音声、図表、ポスター、電子メールなど、さまざまなものが考えられる。
- ・学習到達目標における「社会的な話題」とは、各教科書会社で取り扱っている、環境問題、エネルギー問題、人権問題、ICT、自然環境、世界情勢、科学技術、平和などを指す。自校の教科書とは異なる教科書から題材を見つけることで、難易度も話題も似ているが媒体が異なる題材を活用することができる。
- ・同じ教科書でも、当該学年よりも下の学年の題材を再度学習することで理解が深まり、生徒の精神的負担が軽減されることもある。

(3) 事後指導について

- ・録画したものを授業で共有し、良い例を紹介する。
- ・良い例を取り入れたり、間違いを訂正したりして改良させる。

実践例6 有名な日本人を紹介しよう【書くこと ア】

1 AOMORI CAN-DO リスト（3学年 ア）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて35～45語程度で正確に書くことができる。

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

日本に来たばかりのALTに、有名な日本人について知ってもらえるように、簡単な語句や文を用いて35語以上で書くことができる。

3 パフォーマンス課題

スポーツ選手や歴史上の人物、芸能人など、有名な日本人を紹介する英文を35語以上で書く。

4 目標を達成している生徒の姿

※A基準

Otani Shohei is one of the most popular baseball players in the world. He is known as a great pitcher and hitter. People call him a “two-way player”. He was born in Iwate, just south of Aomori. Many people look up to him because he is kind and he works hard.（51語）

※B基準

I will introduce about Otani Shohei. He is a popular major leaguer. He is a great pitcher and hitter. He said to his teammates, “let’s stop admiring them and just think about winning.” I think he is cool.

※下線部のような単語は受容語彙とし、スペルミスは問わないこととする。（38語）

5 評価

（1）評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
書くこと	<p>【知】既習の言語材料の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技】有名な日本人について、簡単な語句や文を用いて正確に書く技能を身に付けている。</p>	日本に来たばかりのALTに、有名な日本人について知ってもらえるように、簡単な語句や文を用いて、書いている。	日本に来たばかりのALTに、有名な日本人について知ってもらえるように、簡単な語句や文を用いて、書こうとしている。

(2) 評価基準 (ルーブリック評価)

知識・ 技能	B	・既習の言語材料を用いて、正しく書いている。(受容語彙については、意味が伝わる程度のスペルミスを許容する。)
思考・ 判断・ 表現	A	・表現の難易度や豊富さの点を含め、より読みやすい構成で45語以上で書いている。
	B	・35語以上44語で書いている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

単元始めの時間に、単元目標(=パフォーマンステストの目標)を生徒と共有する。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

- ・制限時間は15分とする。
- ・テスト終了後、原稿を回収し、JTEまたはALTが評価する。

② 留意点

辞書使用やネット検索はさせない。

(3) 事後指導について

- ・書いた内容について他者と共有させ、良い例を紹介する。
- ・既習の言語材料の使い方で、共通して見られる間違いがあった場合には、全体で確認し、文法事項の定着を図る。

実践例7 最近の出来事を伝えよう【書くことイ】

1 AOMORI CAN-DO リスト（1学年 イ）

日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を15語～25語程度で書くことができる。

2 単元目標（＝パフォーマンステストの目標）

帰国したALTに近況を伝えるために、まとまりのある文章を15語以上で書くことができる。

3 パフォーマンス課題

最近の出来事について、一つのことを取りあげて、15語以上で書く。

4 目標を達成している生徒の姿

※A基準

I visited Tokyo Disneyland with my family last month. I saw a parade there. It was great.

※B基準

I went to Tokyo Disneyland. Mickey Mouse was cute. Space Mountain was fun. Popcorn was delicious.

5 評価

（1）評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
書くこと	<p>【知】過去形の特徴やきまりを理解している。</p> <p>【技】自分の近況について、過去形を用いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>帰国したALTに自分の近況を伝えるために、一つのことに ついてまとまりのある文章を書いている。</p>	<p>帰国したALTに自分の近況を伝えるために、一つのことに ついてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>

(2) 評価基準（ルーブリック評価）

知識・ 技能	A	・過去形を用いた英文を正しく書いている。
	B	・過去形を用いた英文を、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英語で書いている。
思考・ 判断・ 表現	A	・B基準に加えて、以下が当てはまるような文章になっている。 ・書いている内容に文と文の意味的なつながりや、内容の一貫性がある。
	B	・自分の近況を伝えるために、一つのことについて書いている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・スモールトーク等で、週末や長期休業中に行ったことについて話させる。
- ・日記を書かせる。
- ・まとまりのある文章を書けるようにするために、キーワードを整理して書くことや、5W1Hを意識して書くこと、文と文の内容的なつながりを意識して書くことなどを指導する。
- ・パフォーマンステストにおいて、辞書等が使えないことを伝え、最終的に自分の力で英文を書けるようにさせる。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

- ・定期テストで実施する。

② 留意点

- ・相手意識をもって英文を書けるように、課題設定や声かけを行う。

(3) 事後指導について

- ・過去形の使い方、共通して見られる間違い等があった場合には、全体で確認し文法事項の定着を図る。
- ・優れた構成の文章を全体に紹介する。
- ・生徒が書いた文章を帰国したALTに送り、読んだ感想をビデオ等で紹介する。

実践例 8 環境保全について考えたことを発表しよう 【書くことウ】

1 AOMORI CAN-DO リスト (2 学年 ウ)

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて 25～35 語程度で書くことができる。

2 単元目標 (=パフォーマンステストの目標)

環境問題について書かれた英文を読んで、自分の考えやその理由を同学年の生徒に知ってもらうために、25 語以上で書くことができる。

3 パフォーマンス課題

The Great Barrier Reef の環境汚染の状況と保全の必要性についての英文を読んで、考えたこととその理由を 25 語以上で書く。

【生徒が書く前に読む英文例】

Do you know about the Great Barrier Reef? It is the largest coral reef system on earth. Many kinds of fish and other animals live there.

Many tourists come to see it every year. Scuba diving and snorkeling are popular things to do there. They can also enjoy swimming and watching beautiful coral reef, fish and animals in the sea.

However, the Great Barrier Reef is in trouble because of things like pollution and climate change. Pollution from things like plastic and chemicals can make the water dirty. They can hurt the coral and the animals that live there, too. Climate change makes the water too warm. It can make the coral sick and turn it white. This is called coral bleaching. When the coral gets sick, the fish and other animals can also suffer.

We need to work together to stop pollution and take care of the Earth so that the Great Barrier Reef can stay healthy and beautiful for a long time.

4 目標を達成している生徒の姿

I am sad to know the Great Barrier Reef is in trouble because of the pollution and climate change. It is important for us to work together.

(27 語)

Plastic waste is bad for the sea. I want to keep it healthy and beautiful. So I want to use reusable bags instead of plastic ones. (26 語)

5 評価

(1) 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
書くこと	<p>【知】 to 不定詞の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技】環境保全について考えたことを、to 不定詞を用いて書く技能を身に付けている。</p>	読み手に環境保全についての自分の考えやその理由を知ってもらうために、簡単な語句や文を用いて書いている。	読み手に環境保全についての自分の考えやその理由を知ってもらうために、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

(2) 評価基準 (ルーブリック評価)

知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞を用いた英文を正しく書いている。 ・ その他の英文についても、正しく書いている。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞を用いた英文を正しく書いている。 ・ その他の英文について、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがある英語で書いている。
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文を読んで考えたことや感じたこと、その理由を25語以上で書いている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。思考・判断・表現において、Bを上回った場合(考えと理由を2つ書き、設定語数を大きく超えた場合等)はAとする。

6 パフォーマンステストについて

(1) 事前指導について

- ・ 単元の始めの時間に、単元目標を生徒と共有する。
- ・ 単元を通して、世界各地の環境問題についての英文を読んで考えたことや感じたこと、その理由などを書き、読み合い、意見交流をする活動を継続する。

(2) パフォーマンステストの実施について

① 内容

- ・ 制限時間は20分とする。
- ・ 読んだ英文の内容を踏まえ、自分の考えやその理由を書く。

② 留意点

- ・ 辞書使用やネット検索はさせない。

(3) 事後指導について

- ・ 書いた英文を、同学年の生徒間でタブレット端末上で共有し、読み合う。自分の考えとの共通点、相違点、納得した点について意見共有する。
- ・ 英文の正確さについて、全体または個別に確認する。

IV 参考文献

- ◆文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
- ◆文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ◆国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
中学校外国語（令和2年3月）
- ◆啓林館 BLUE SKY English Course 123（令和2年版）
- ◆東京書籍 NEW HORIZON English Course 123（令和2年版）
- ◆三省堂 NEW CROWN English Series 123（令和2年版）
- ◆光村図書 Here We Go English Course 123（令和2年版）
- ◆札幌市教育委員会 令和2年度札幌市英語教育改善プラン 小・中・高等学校間の
連携・接続を図る「札幌CAN-DOスタンダード」活用ハンドブック（令和3年2月）
- ◆本多敏幸 明治図書出版
中学校外国語新3観点の学習評価完全ガイドブック（令和2年10月）
- ◆瀧沢広人 学陽書房 実例でわかる！中学英語パフォーマンステスト&学習評価
（令和3年10月）